



乳がんを知ろう

ピンクリボン通信 vol.6

乳がん検診での
超音波検査の特徴とは？



乳がん検診での画像検査と言えば、マンモグラフィと超音波(エコー)が用いられるのが一般的です。

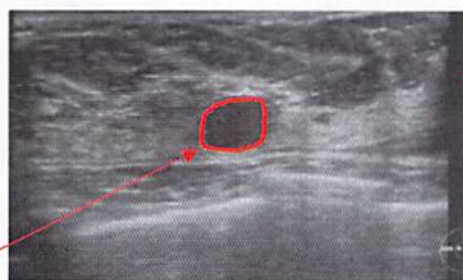
本号では、超音波検査にフォーカスをあてて説明します。

超音波検査の得意な点

- ・X線を使わないため、繰り返し検査ができ、**被ばくがない**ため妊娠中の方でも安心して受けることができる。
- ・見たい部分にゼリーを塗って、携帯電話くらいの大きさの機械を当てるだけなので、**痛みがない**。
- ・**乳腺が発達した若い女性でも乳がんを発見しやすい**。また、しこりの中の状態や広がり具合まで観察できる。

乳腺

腫瘍

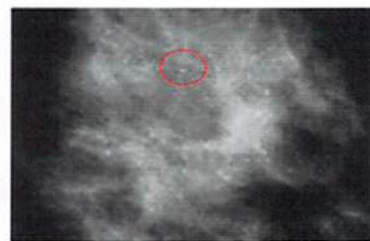


高濃度乳腺

乳腺が発達した乳房(高濃度乳腺)でも腫瘍が発見しやすい！！

超音波検査の苦手な点

- ・早期の乳がんのサインである石灰化を見つけるのは不得意である。
- ・しこりをつくらない乳がんが発見しにくい。
- ・骨や空気があると観察しにくくなる。
- ・観察可能な範囲が狭い。



↑マンモグラフィでは小さな石灰化が見つけやすい。



↑超音波では小さな石灰化が分かりにくい。

このように、超音波検査には特徴がありますので、より正確な診断を行うためには超音波検査かマンモグラフィ検査どちらか一方...ということではなく、**併用する検診**が勧められています。

超音波検査を受ける際の注意



検査の際に不明な点があれば遠慮なく技師にお尋ねください。

● 乳房にゼリーを塗って検査をします

検査を行う際に、乳房にゼリーを塗らせていただきます。

ゼリーは検査終了後にタオルできれいに拭き取らせて頂きます。

● 上半身は裸で検査します

服装はできるだけ上下セパレートの服でお越してください。

● 検査はすべて女性技師が行います

参考文献: 桜井正児 岡村隆徳編著「動画像でトレーニング 乳腺エコー」, 医療科学社, 2012年

©藤田医科大学ばんだね病院 放射線部